

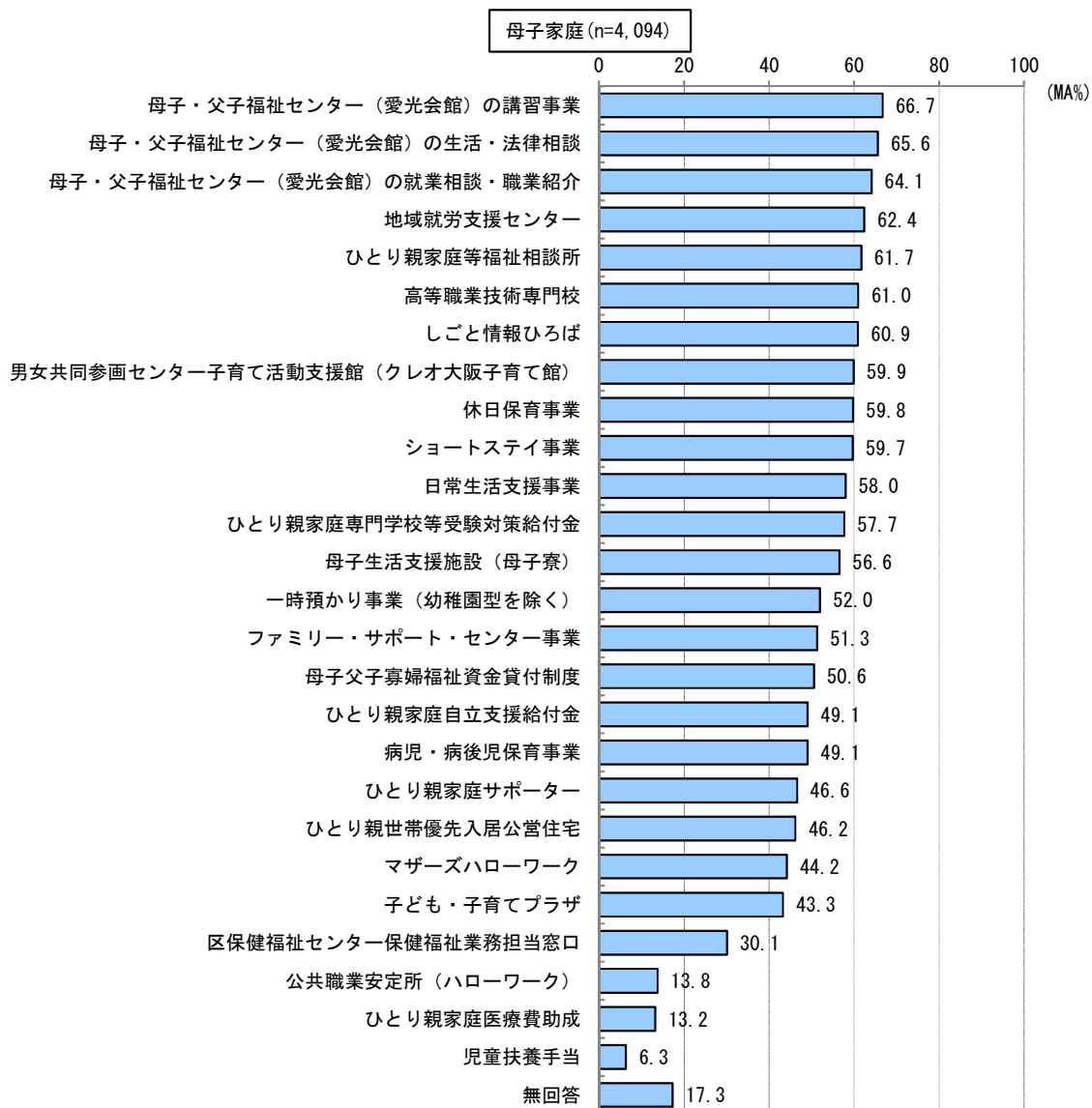
## 7. 各種支援策について

### (1) 各種施設・制度・施策の周知度と利用状況

#### ① 周知度

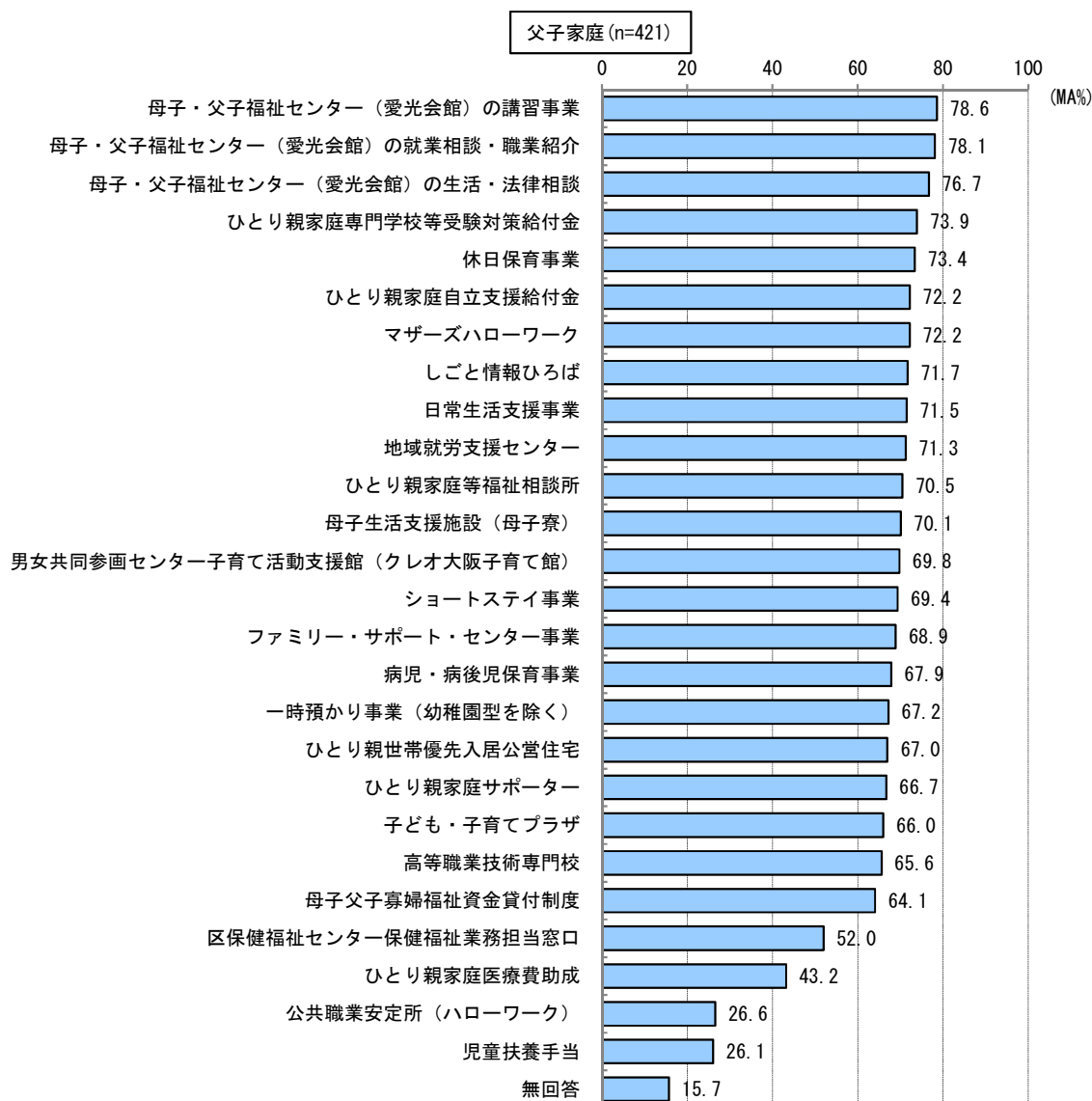
問 42 次の制度や施策のことをご存じですか。また、これまで利用したもの、今後利用したいものがありますか。知らないもの、利用したことがあるもの、今後利用したいものにすべて○をつけてください。

【図 7-1①-1 知らない各種施設・制度・施策（母子家庭）】



各種施設・制度・施策で知らないものについて、母子家庭では、「母子・父子福祉センター（愛光会館）」の事業が上位3項目に挙がっており、「講習事業」が66.7%で最も多く、次いで「生活・法律相談」が65.6%、「就業相談・職業紹介」が64.1%となっている。これに続いて、「地域就労支援センター」が62.4%、「ひとり親家庭等福祉相談所」が61.7%となっている。（図 7-1①-1）

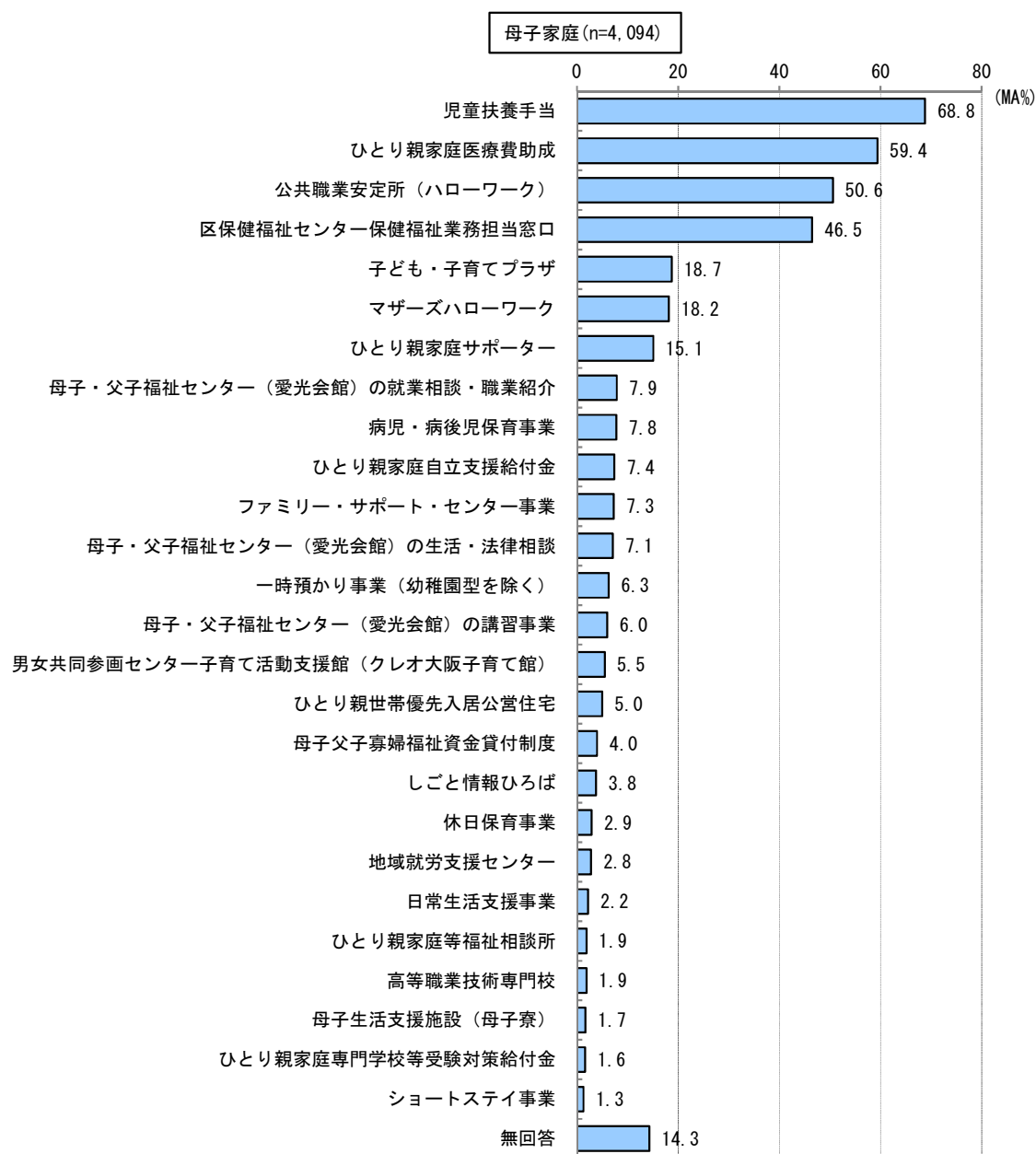
【図 7-1①-2 知らない各種施設・制度・施策（父子家庭）】



父子家庭では、「母子・父子福祉センター（愛光会館）」の事業が上位3項目に挙がっており、「講習事業」が78.6%で最も多く、次いで「就業相談・職業紹介」が78.1%、「生活・法律相談」が76.7%となっている。これに続いて、「ひとり親家庭専門学校等受験対策給付金」が73.9%、「休日保育事業」が73.4%となっている。（図 7-1①-2）

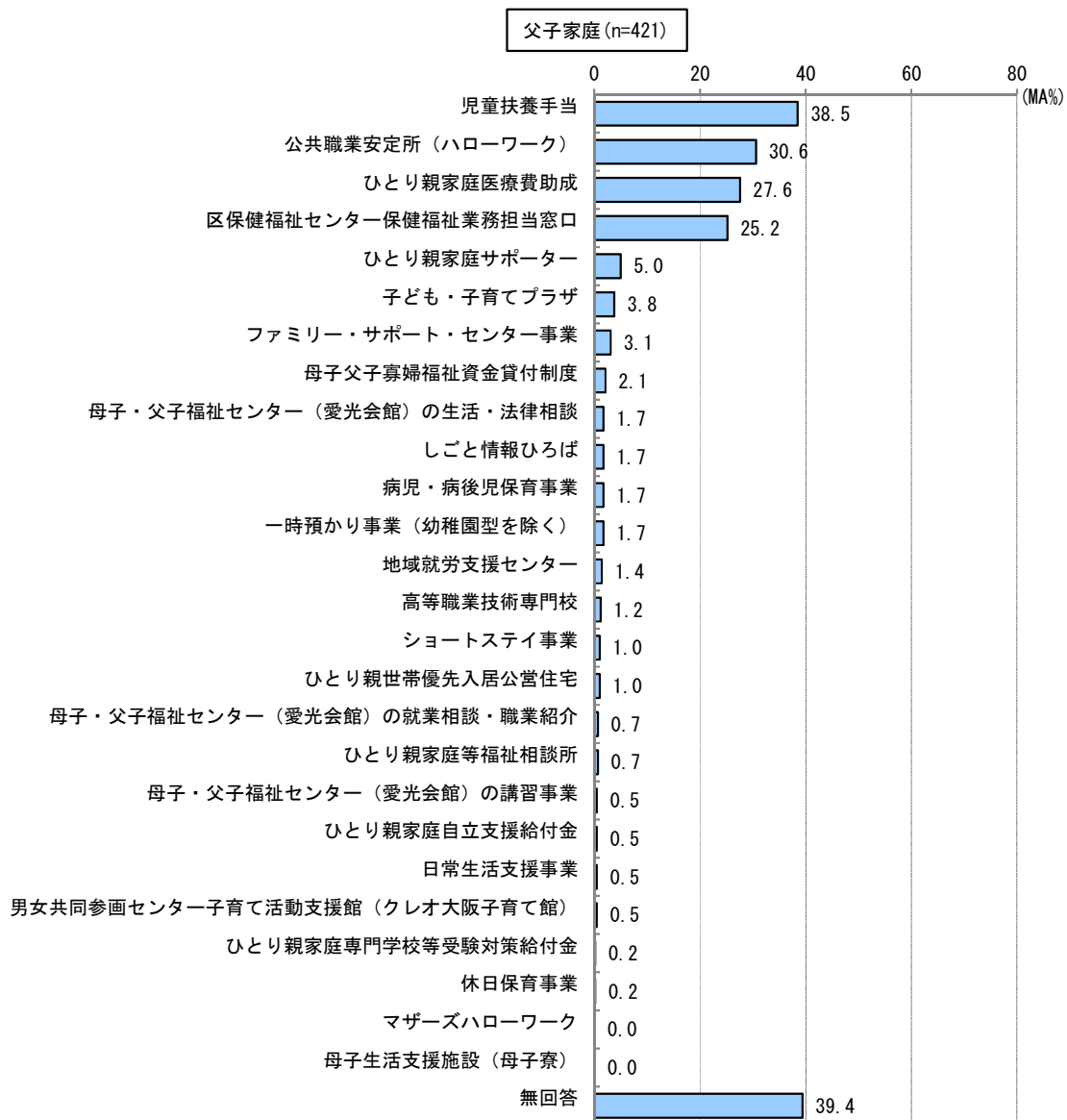
## ② 利用状況

【図 7-1②-1 利用したことがある各種施設・制度・施策（母子家庭）】



利用したことがある各種施設、制度・施策について、母子家庭では「児童扶養手当」が68.8%で最も多く、次いで「ひとり親家庭医療費助成」が59.4%、「公共職業安定所（ハローワーク）」が50.6%、「区保健福祉センター保健福祉業務担当窓口」が46.5%、「子ども・子育てプラザ」が18.7%となっている。（図 7-1②-1）

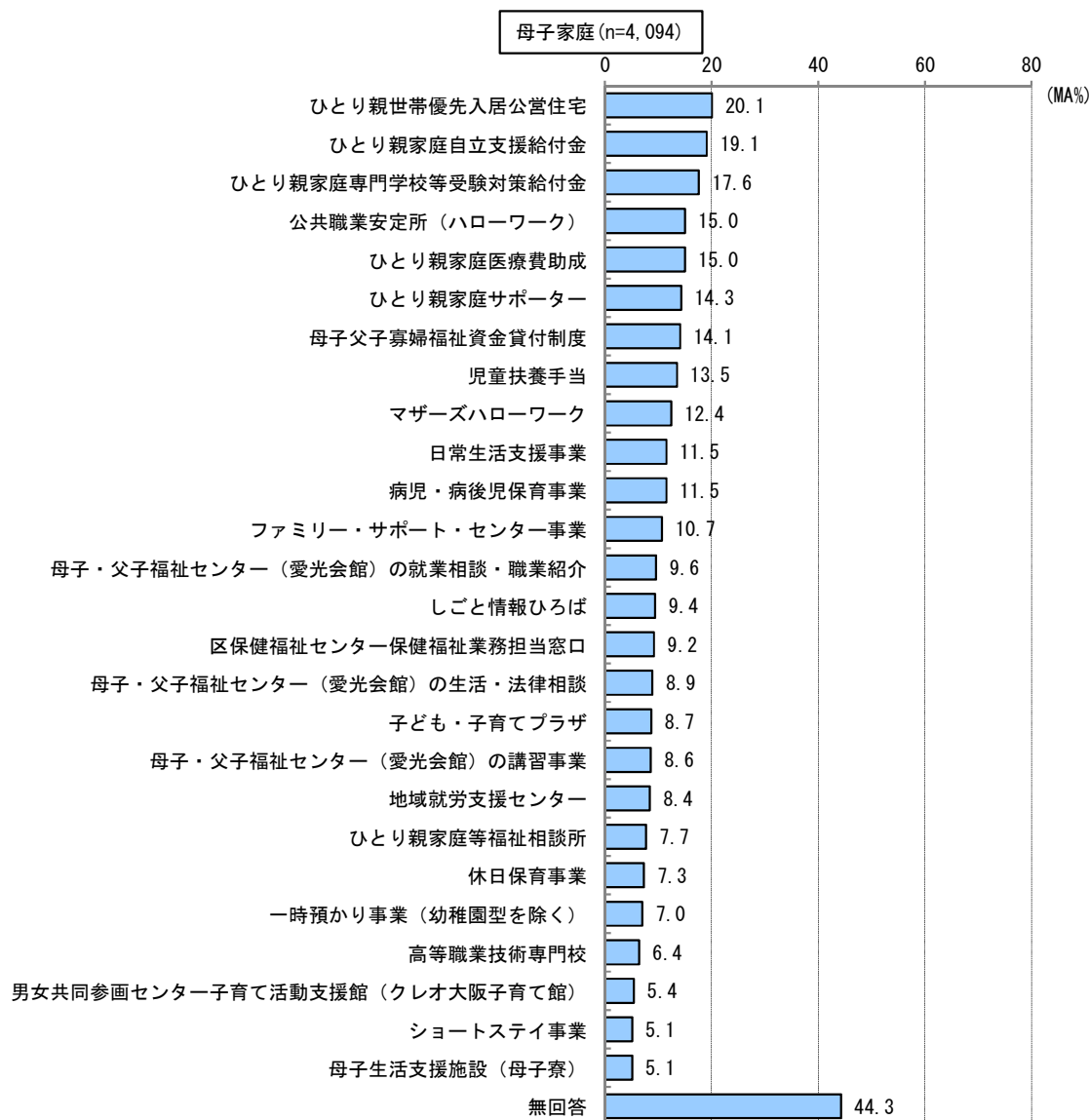
【図 7-1②-2 利用したことがある各種施設・制度・施策（父子家庭）】



父子家庭では、「児童扶養手当」が 38.5%で最も多く、次いで「公共職業安定所（ハローワーク）」が 30.6%、「ひとり親家庭医療費助成」が 27.6%。「区保健福祉センター保健福祉業務担当窓口」が 25.2%、「ひとり親家庭サポーター」が 5.0%となっている。  
 (図 7-1②-2)

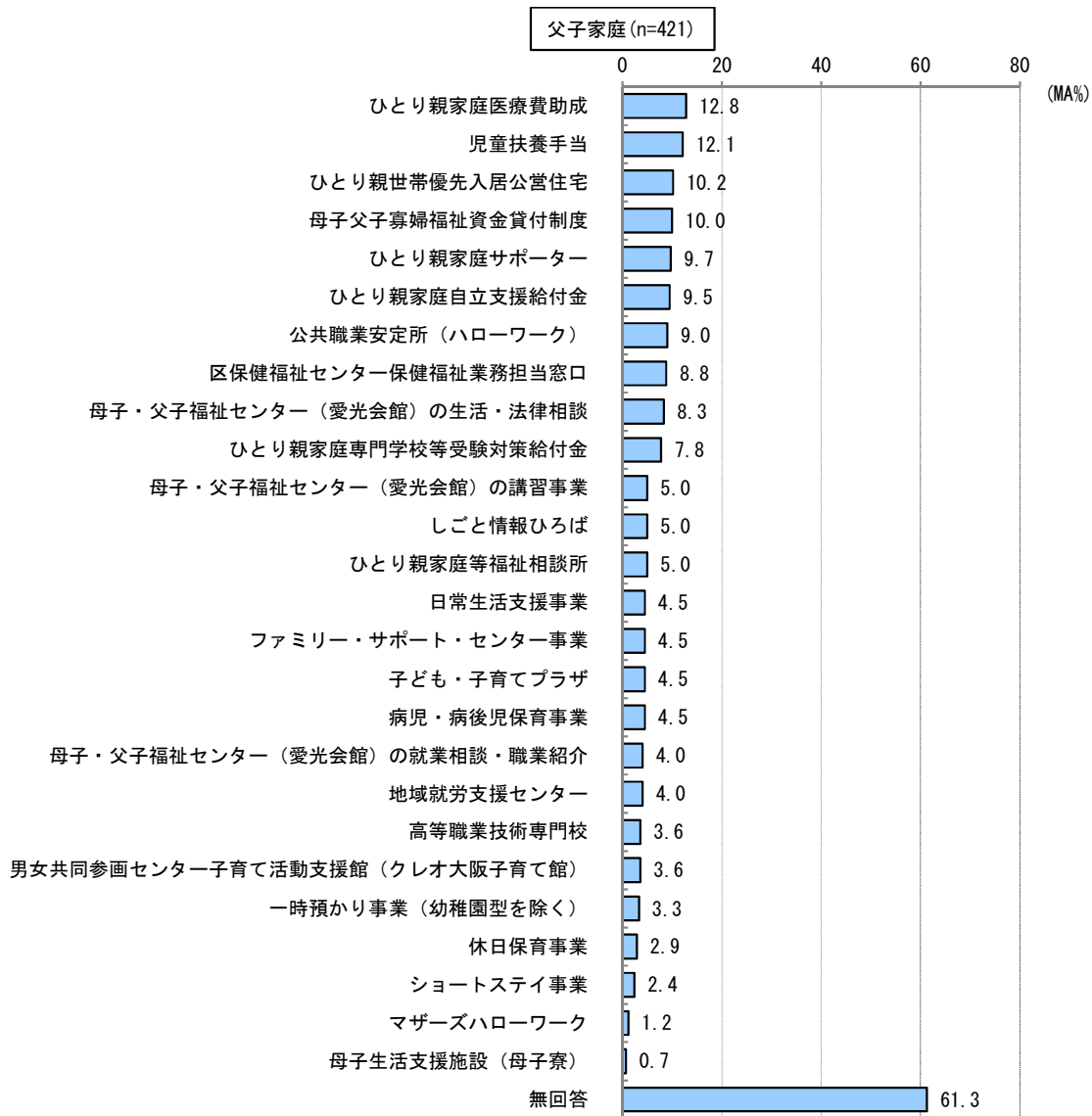
### ③ 利用意向

【図 7-1③-1 今後利用したい各種施設・制度・施策（母子家庭）】



今後利用したい各種施設・制度・施策について、母子家庭では「ひとり親世帯優先入居公営住宅」が20.1%で最も多く、次いで「ひとり親家庭自立支援給付金」が19.1%、「ひとり親家庭専門学校等受験対策給付金」が17.6%、「公共職業安定所（ハローワーク）」と「ひとり親家庭医療費助成」が同率で15.0%となっている。（図 7-1③-1）

【図 7-1③-2 今後利用したい各種施設・制度・施策（父子家庭）】

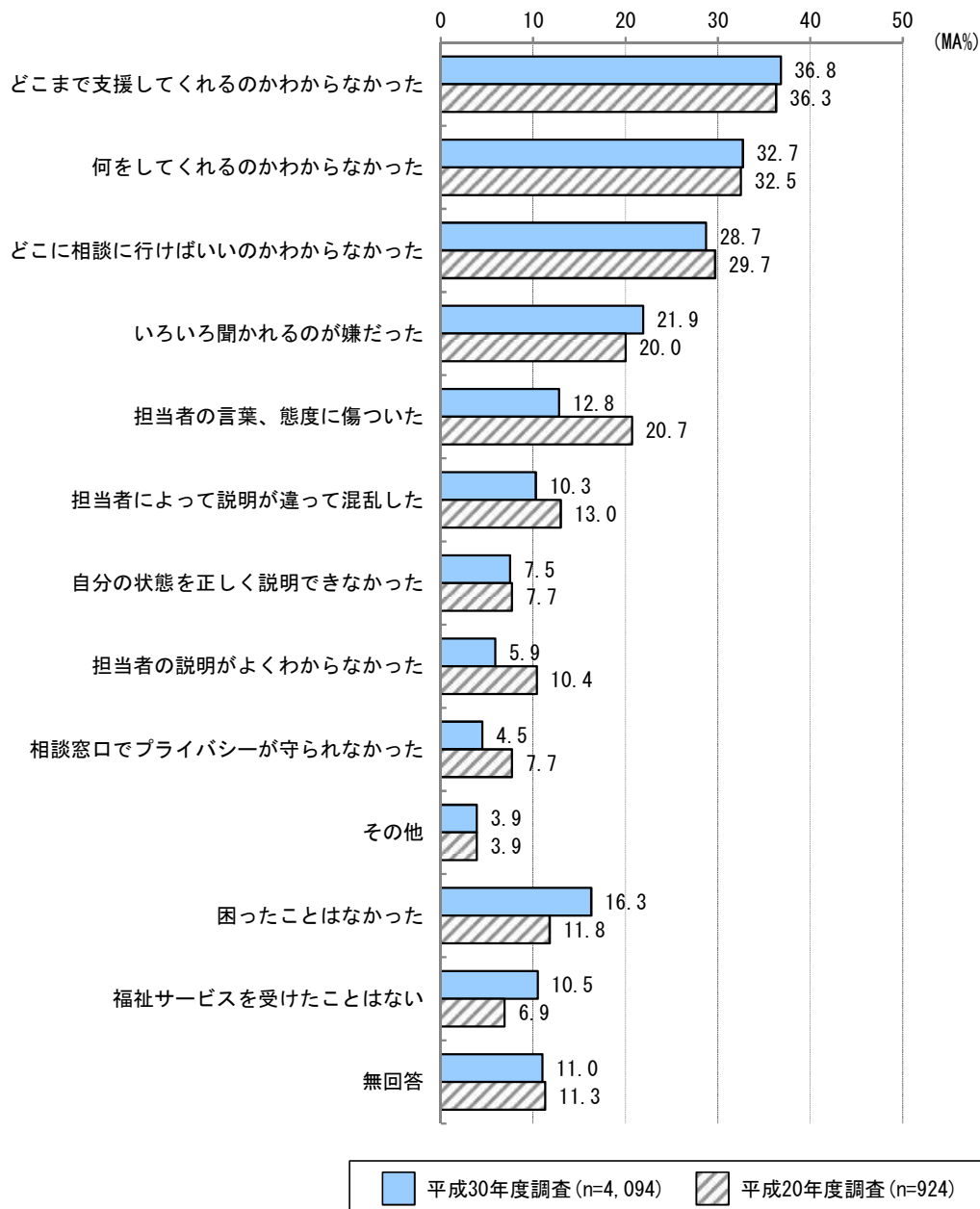


父子家庭では、「ひとり親家庭医療費助成」が12.8%で最も多く、次いで「児童扶養手当」が12.1%、「ひとり親世帯優先入居公営住宅」が10.2%、「母子父子寡婦福祉資金貸付制度」が10.0%、「ひとり親家庭サポーター」が9.7%となっている。（図 7-1③-2）

## (2) 福祉サービスを受けるときに困ったこと

問 43 福祉サービスを受けるときに不満なこと、困ったことは何ですか。  
(○はあてはまるものすべて)

【図 7-2-1 経年比較 福祉サービスを受けるときに困ったこと (母子家庭)】

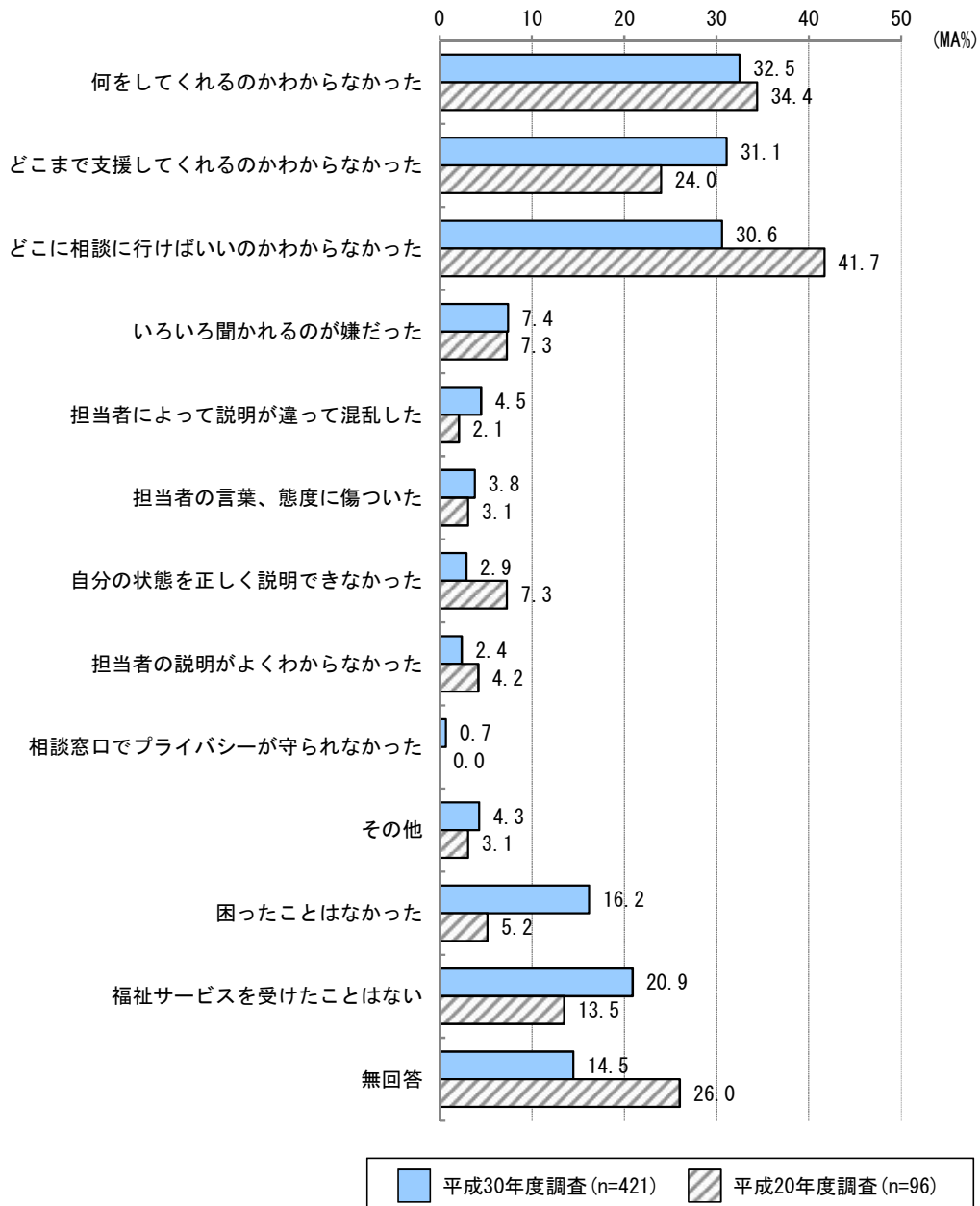


福祉サービスを受けるときに困ったことについて、母子家庭では「どこまで支援してくれるのかわからなかった」や「何をしてくれるのかわからなかった」、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」が上位3項目に挙がっており、福祉サービスの周知度の低さがうかがえる。

また、福祉サービスを受けるときに不満だった内容として、「いろいろ聞かれるのが嫌だった」が21.9%と多くなっている。

平成20年度調査と比較すると、「担当者の言葉、態度に傷ついた」は7.9ポイント減少している。(図 7-2-1)

【図 7-2-2 経年比較 福祉サービスを受けるときに困ったこと（父子家庭）】



父子家庭でも「何をしてくれるのかわからなかった」や「どこまで支援してくれるのかわからなかった」、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」が上位3項目に挙がっており、福祉サービスの周知度の低さがうかがえる。これに続いて「福祉サービスを受けたことはない」が20.9%と多くなっている。

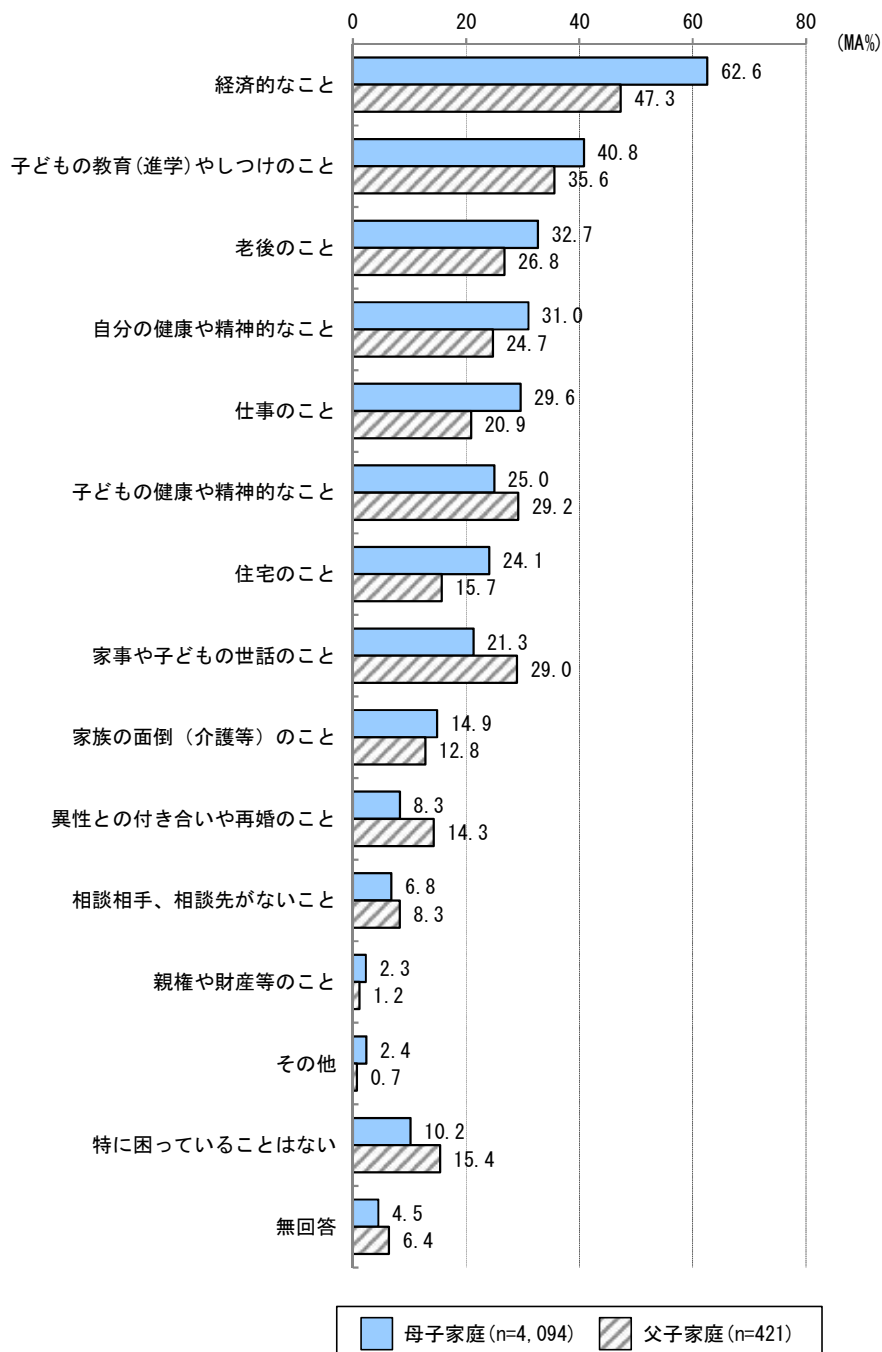
平成20年度調査と比較すると、「困ったことはなかった」が11.0ポイント、「福祉サービスを受けたことはない」が7.4ポイント、「どこまで支援してくれるのかわからなかった」が7.1ポイント増加しており、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」は11.1ポイント減少している。(図7-2-2)



### (3) 現在困っていること

問 44 現在困っていることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図 7-3 現在困っていること】



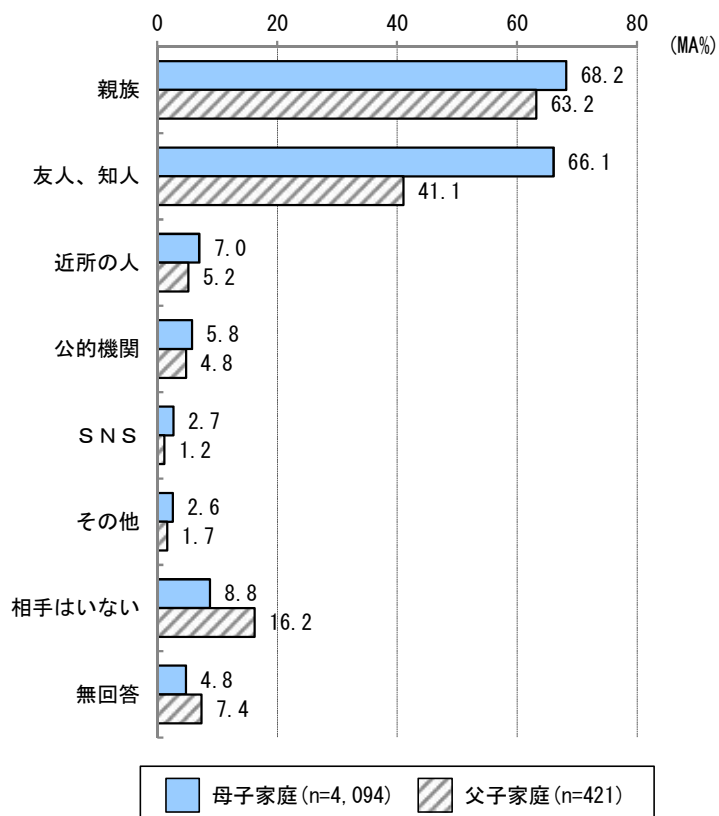
現在困っていることについて、母子家庭・父子家庭とも「経済的なこと」が最も多く、母子家庭は62.6%、父子家庭は47.3%で、母子家庭のほうが15.3ポイント高い割合になっている。これに次いで「子どもの教育(進学)やしつけのこと」が母子家庭で40.8%、父子家庭で35.6%となっており、続けて母子家庭は「老後のこと」(32.7%)、「自分の健康や精神的なこと」(31.0%)が多く、父子家庭は「子どもの健康や精神的なこと」(29.2%)、「家事や子どもの世話のこと」(29.0%)が多くなっている。(図 7-3)

#### (4) 相談先や頼れる相手

##### ① 困ったときの相談先

問 45 困ったときに相談や手助けを頼める相手がありますか。(〇はあてはまるものすべて)

【図 7-4① 困ったときの相談先】



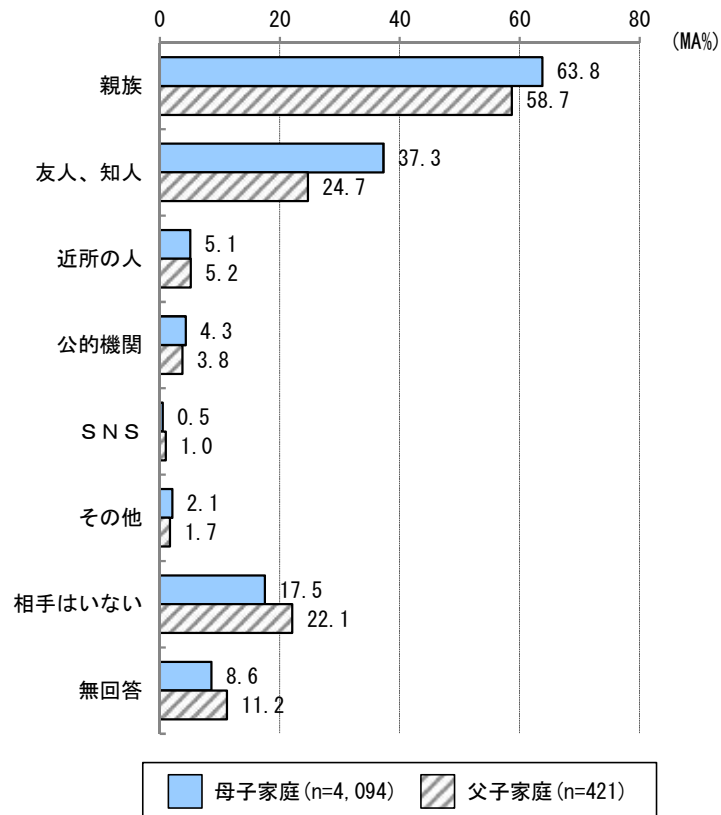
困ったときの相談先について、母子家庭・父子家庭とも「親族」が最も多く、母子家庭は68.2%、父子家庭は63.2%となっている。これに次いで「友人、知人」が、母子家庭は66.1%、父子家庭は41.1%となっている。

一方、「相手はいない」では、母子家庭が8.8%、父子家庭が16.2%となっている。

(図 7-4①)

## ② 困ったときに手助けを頼める相手

【図 7-4② 困ったときに手助けを頼める相手】



困ったときに手助けを頼める相手について、母子家庭・父子家庭とも「親族」が最も多く、母子家庭は63.8%、父子家庭は58.7%となっている。これに次いで「友人、知人」が、母子家庭は37.3%、父子家庭は24.7%となっている。

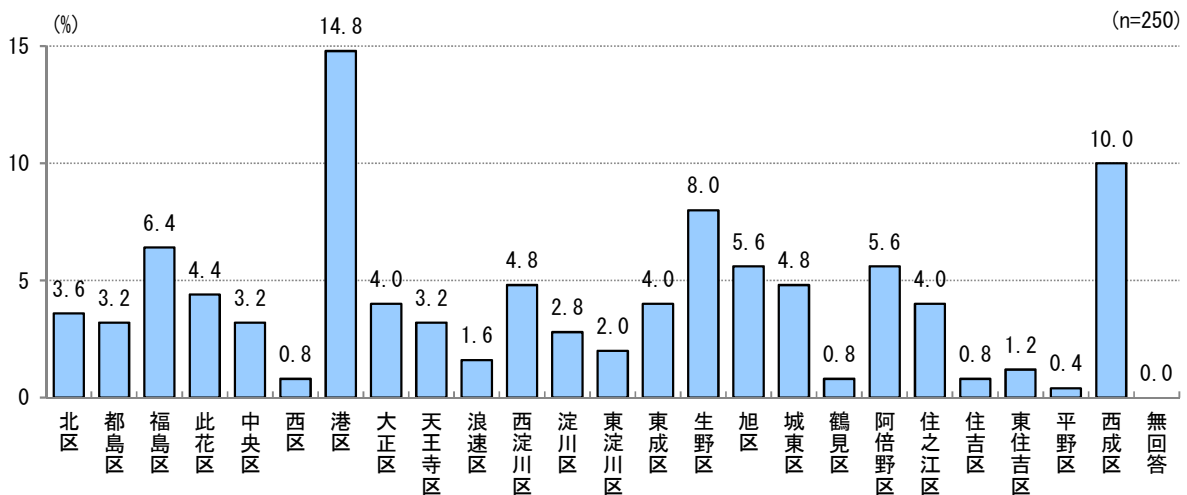
一方、「相手はいない」では、母子家庭が17.5%、父子家庭が22.1%となっている。  
(図 7-4②)

## Ⅲ－２ 寡婦世帯の調査結果

### 1. 家庭の状況について

#### (1) 居住区

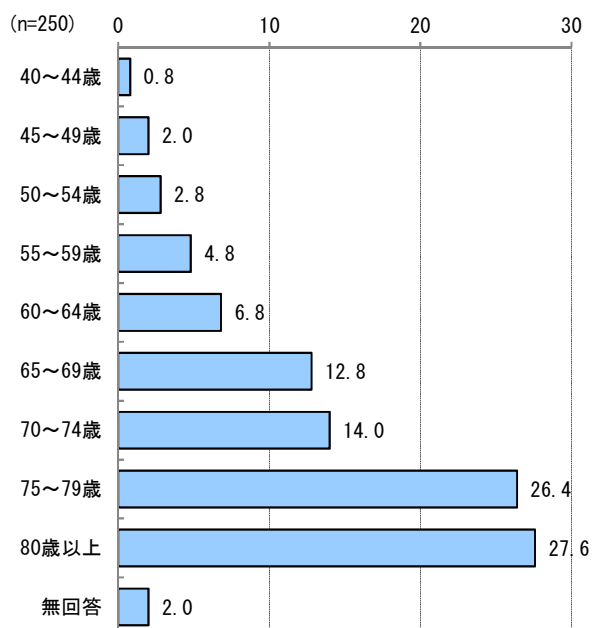
【図 1-1 居住区】



居住区については、「港区」が 14.8% で最も多く、次いで「西成区」が 10.0% となっている。(図 1-1)

#### (2) 回答者の年齢

【図 1-2 回答者の年齢】



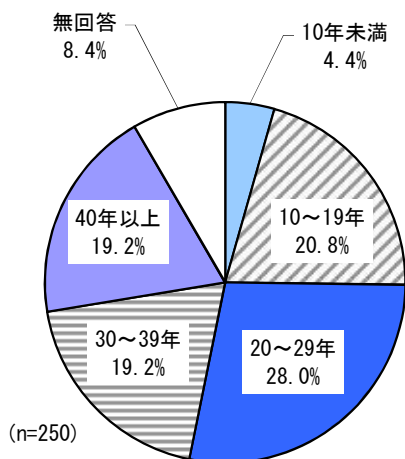
回答者の年齢については、「80歳以上」が 27.6% で最も多く、次いで「75~79歳」が 26.4%、「70~74歳」が 14.0% となっており、65歳以上の割合が 80.8% を占めている。

なお、平均年齢は 73.2 歳となっている。(図 1-2)

### (3) ひとり親家庭になった年数

#### ① ひとり親家庭になってからの期間

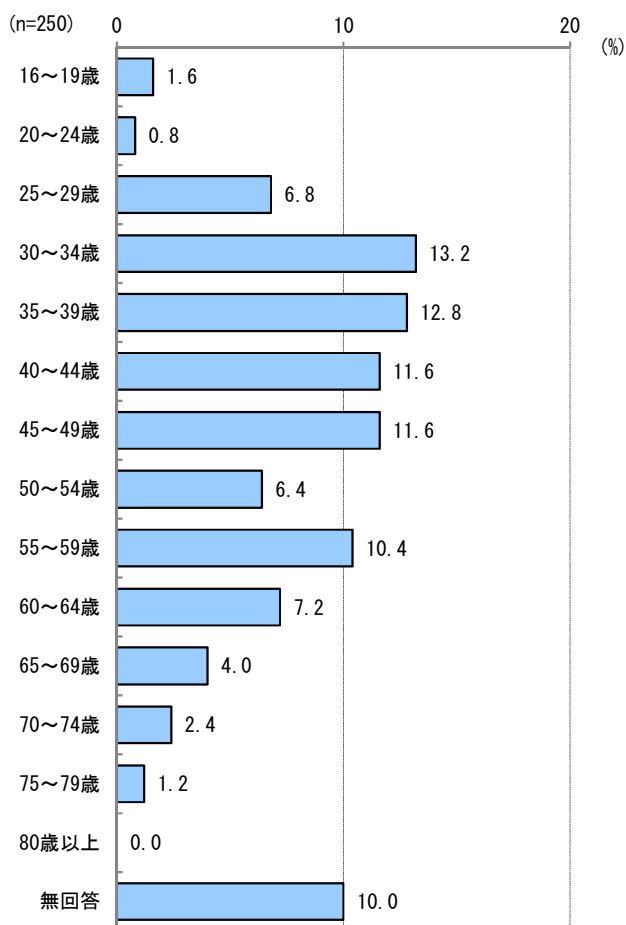
【図 1-3 ひとり親家庭になってからの期間】



ひとり親家庭になってからの期間については、「20~29年」が28.0%で最も多く、次いで「10~19年」が20.8%、「30~39年」と「40年以上」が同率で19.2%となっている。(図 1-3)

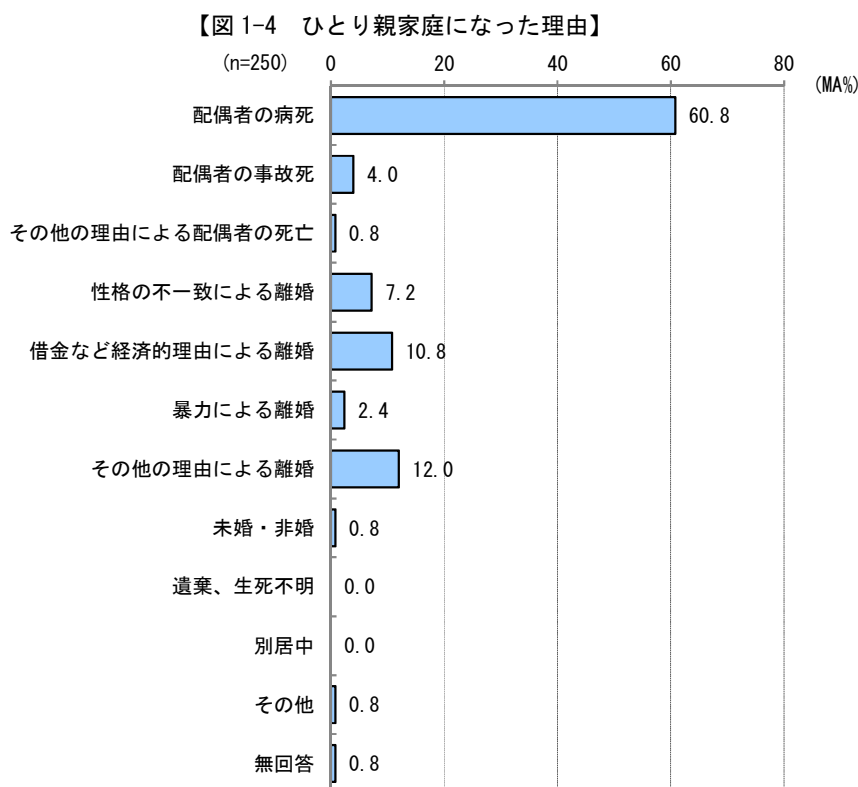
#### ② ひとり親家庭になったときの年齢

【図 1-3-1 ひとり親家庭になったときの年齢】



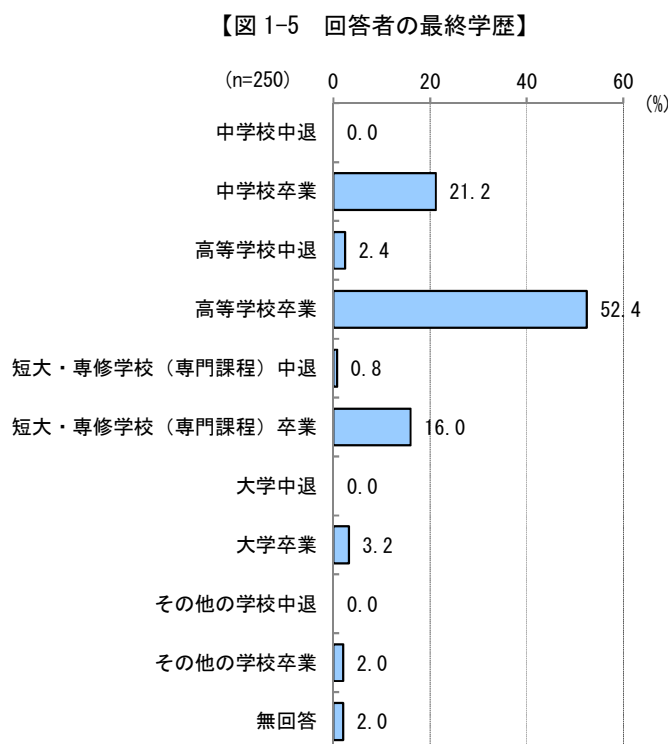
回答者の現在の年齢から、ひとり親家庭になってからの期間を引いて、ひとり親家庭になったときの年齢を算出したところ、「30~34歳」が13.2%で最も多く、次いで「35~39歳」が12.8%、「40~44歳」と「45~49歳」が同率で11.6%、「55~59歳」が10.4%となっている。(図 1-3-1)

#### (4) ひとり親家庭になった理由



ひとり親家庭になった理由については、「配偶者の病死」が60.8%で最も多く、次いで「その他の理由による離婚」が12.0%、「借金など経済的理由による離婚」が10.8%となっている。(図 1-4)

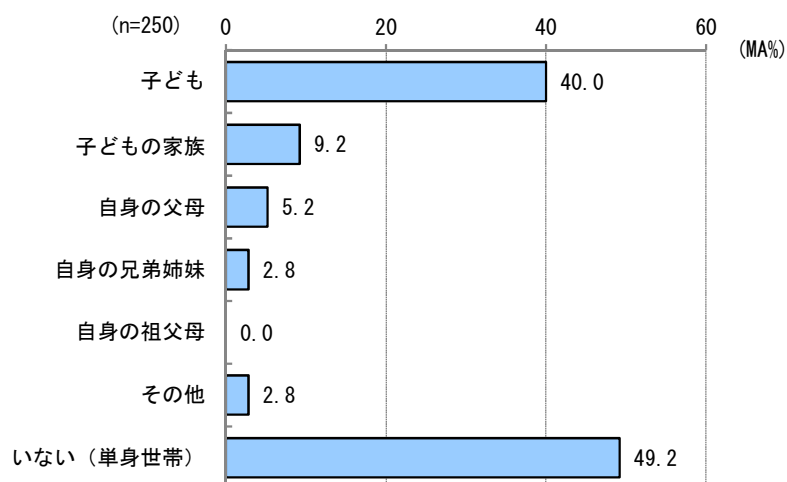
#### (5) 回答者の最終学歴



回答者の最終学歴については、「高等学校卒業」が52.4%で最も多く、次いで「中学校卒業」が21.2%、「短大・専修学校（専門課程）卒業」が16.0%、「大学卒業」が3.2%となっている。(図 1-5)

## (6) 同居家族

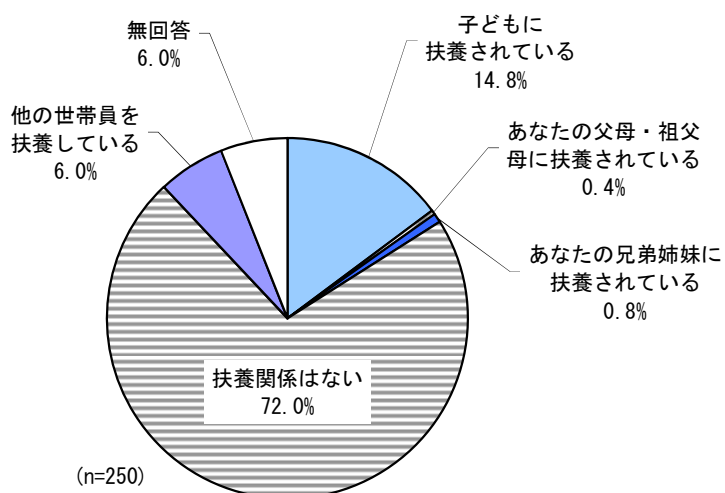
【図 1-6 同居家族】



現在同居している家族については、「いない (単身世帯)」が 49.2%と最も多くなっている。同居家族がいる人では、「子ども」が 40.0%で最も多く、次いで「子どもの家族」が 9.2%、「自身の父母」が 5.2%となっている。(図 1-8)

## (7) 扶養関係

【図 1-7 扶養関係】



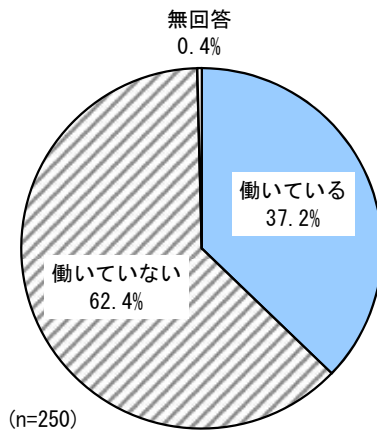
扶養関係については、「扶養関係はない」が 72.0%で最も多く、次いで「子どもに扶養されている」が 14.8%、「他の世帯員を扶養している」が 6.0%となっている。(図 1-7)

## 2. 仕事の状況

### (1) 就業の有無

問8 あなたは働いていますか。(○は1つ)

【図2-1 就業の有無】



就業の有無について、「働いている」が37.2%、「働いていない」は62.4%を占めている。(図2-1)

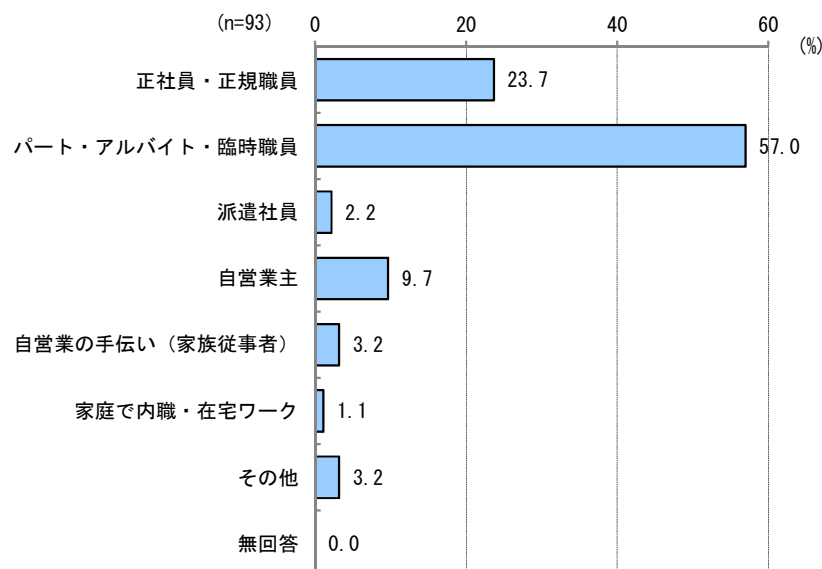
### (2) 就業状況

#### ① 就業形態

【問8で「働いている」と回答した方におうかがいします】

問9 あなたは、どのような就業形態・職種で働いていますか。(○は1つ)

【図2-2① 就業形態】

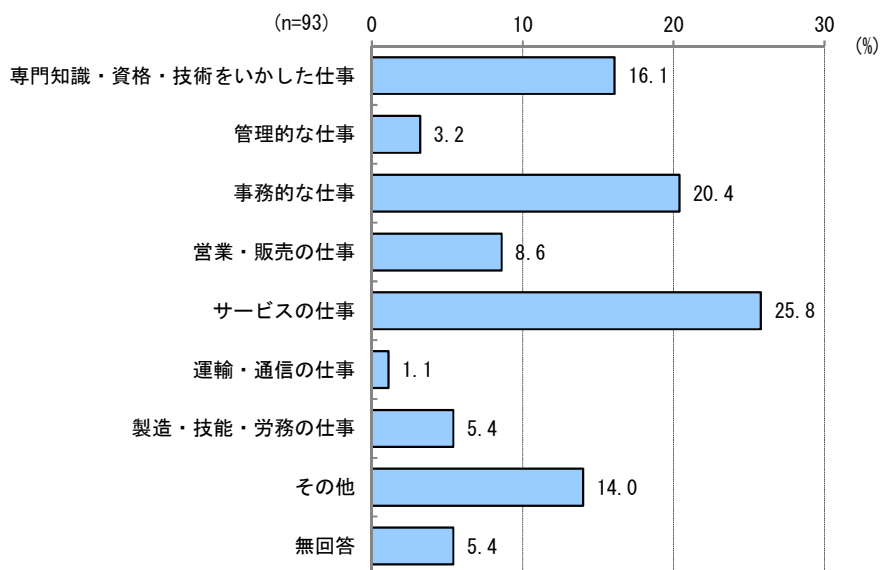


働いていると回答した人に、就業形態をたずねると、「パート・アルバイト・臨時職員」が57.0%で最も多く、次いで「正社員・正規職員」が23.7%、「自営業主」が9.7%となっている。(図2-2①)



## ② 職種

【図 2-2② 職種】



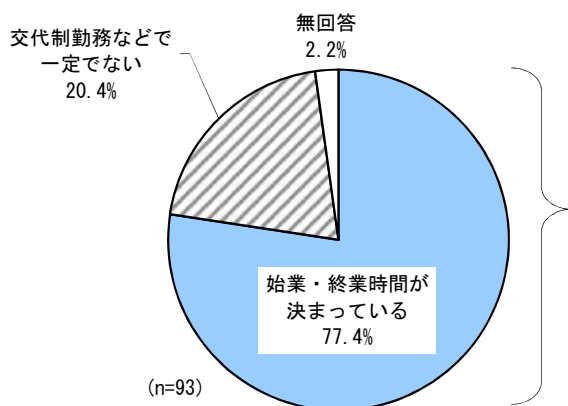
職種をたずねると、「サービスの仕事」が 25.8%で最も多く、次いで「事務的な仕事」が 20.4%、「専門知識・資格・技術をいかした仕事」が 16.1%となっている。(図 2-2②)

## (3) 労働時間

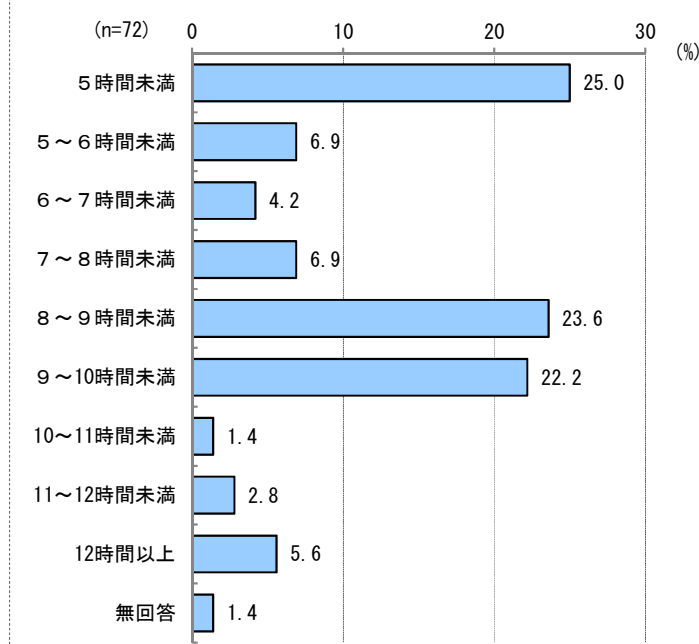
【問 8 で「働いている」と回答した方におうかがいします】

問 10 あなたは何時から何時まで働いていますか。午前・午後どちらかに○をつけ、時間を記入してください。一定でない方は「交代制勤務などで一定でない」に○をつけてください。

【図 2-3 就業時間】



【図 2-3-1 労働時間】



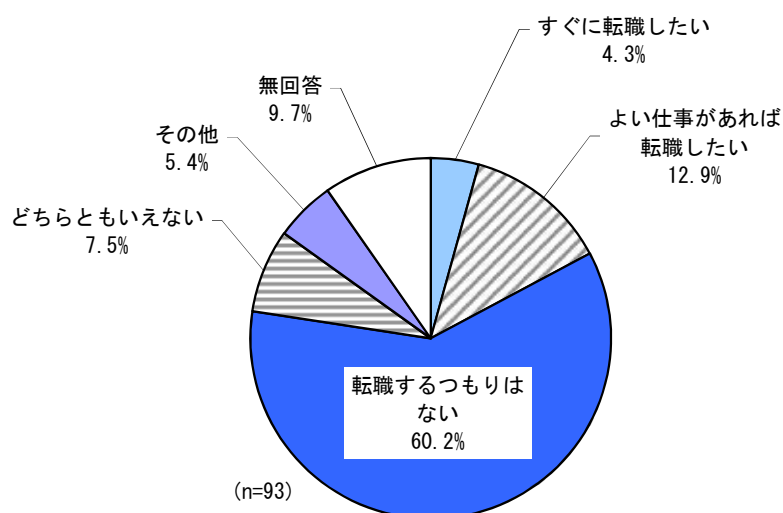
働いていると回答した人に、就業時間をたずねると、「始業・終業時間が決まっている」が77.4%、「交代制勤務などで一定でない」は20.4%となっている。(図2-3)

始業・終業時間が決まっている人から、終業時間を始業時間で引いて算出した労働時間をみると、「5時間未満」が25.0%で最も多く、次いで「8～9時間」が23.6%、「9～10時間」が22.2%となっている。(図2-3-1)

#### (4) 転職希望の有無

【問8で「働いている」と回答した方におうかがいします】  
問11 あなたは転職したいですか。(○は1つ)

【図2-4 転職希望の有無】



働いていると回答した人に、転職したいかをたずねると、「転職するつもりはない」が60.2%で最も多く、次いで「よい仕事があれば転職したい」が12.9%、「どちらともいえない」が7.5%となっている。

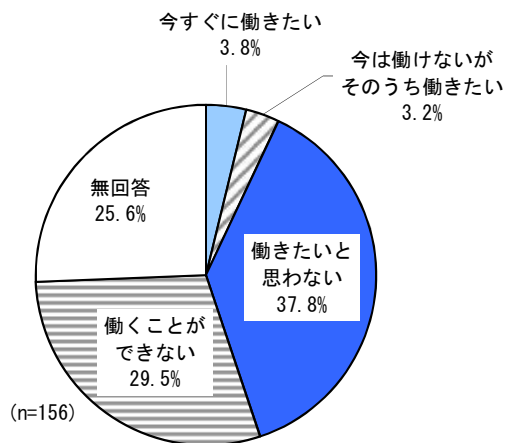
また、「すぐに転職したい」は4.3%となっており、「よい仕事があれば転職したい」も含めると、転職希望のある割合は17.2%となっている。(図3-4)

## (5) 現在無職の人の就労に対する意識

### ① 現在無職の人の就労希望

【問8で「働いていない」と回答した方におうかがいします】  
 問12 あなたは働きたいですか。(○は1つ)

【図2-5① 現在無職の人の就労希望】



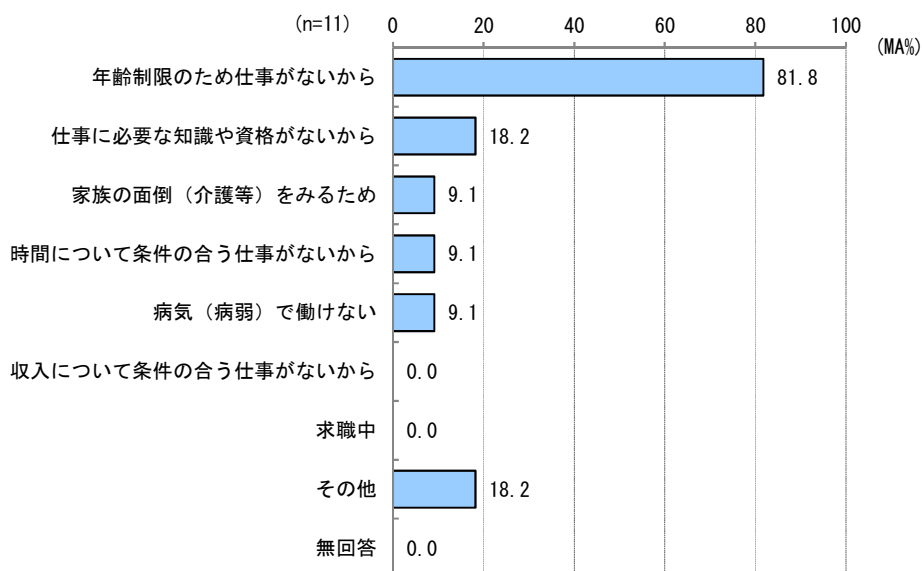
働いていないと回答した人に、働きたいかをたずねると、「働きたいと思わない」が37.8%で最も多く、次いで「働くことができない」が29.5%となっている。

一方、「今すぐ働きたい」が3.8%、「今は働けないがそのうち働きたい」は3.2%となっており、就労希望がある割合は7.0%となっている。(図2-5①)

### ② 就労希望がありながら無職である理由

問12-1 問12で「働きたい」と回答した方におうかがいします。  
 働きたいのに働いていない理由は何ですか。(○はあてはまるものすべて)

【図2-5② 就労希望がありながら無職である理由】



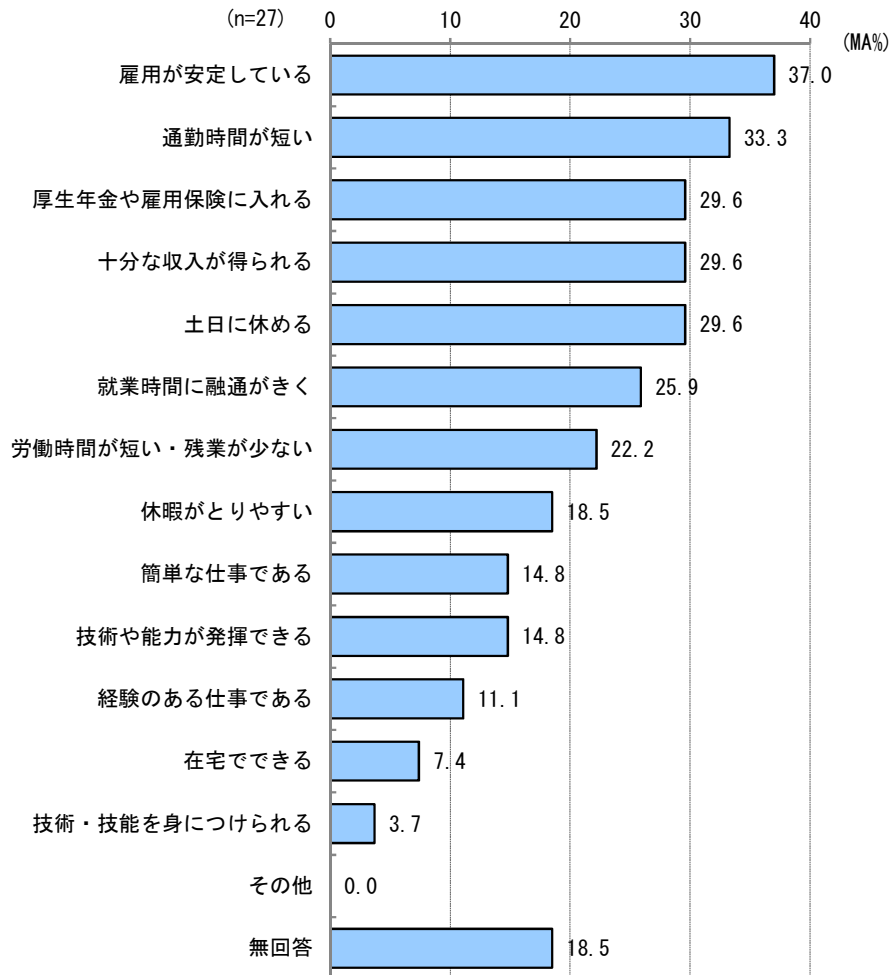
就労希望がある人に、働いていない理由をたずねると、母数が少ないので一概には言えないが、「年齢制限のため仕事がないから」が81.8%で最も多く、次いで「仕事に必要な知識や資格がないから」が18.2%となっている。(図2-5②)

## (6) 仕事に就く際に重視すること

【転職したい方、無職で働きたい方におうかがいします】

問 13 仕事に就く場合に重視することは何ですか。(○はあてはまるものすべて)

【図 2-6 仕事に就く際に重視すること】



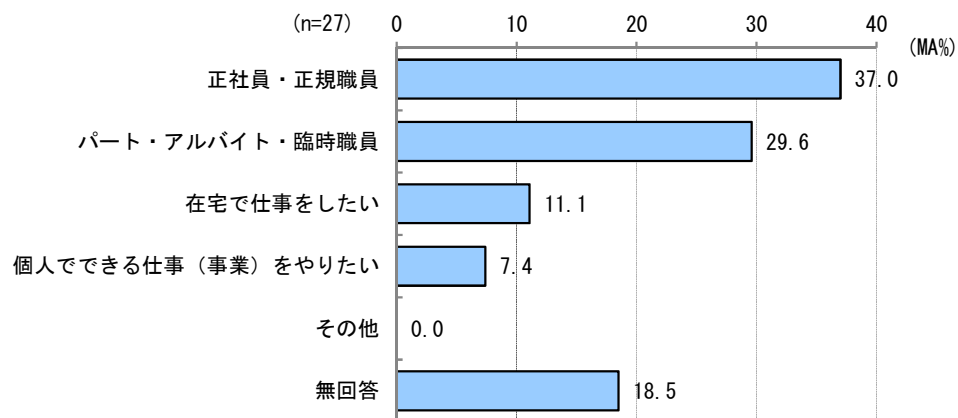
転職したい、無職で働きたい人に、仕事に就く際に重視することをたずねると、「雇用が安定している」が37.0%で最も多く、次いで「通勤時間が短い」が33.3%となっており、「厚生年金や雇用保険に入れる」、「十分な収入が得られる」、「土日に休める」は同率で29.6%となっている。(図 2-6)

## (7) 希望する就業形態

【転職したい方、無職で働きたい方におうかがいします】

問 14 あなたはどのような就業形態で働きたいですか。(〇は1つ)

【図 2-7 希望する就業形態】



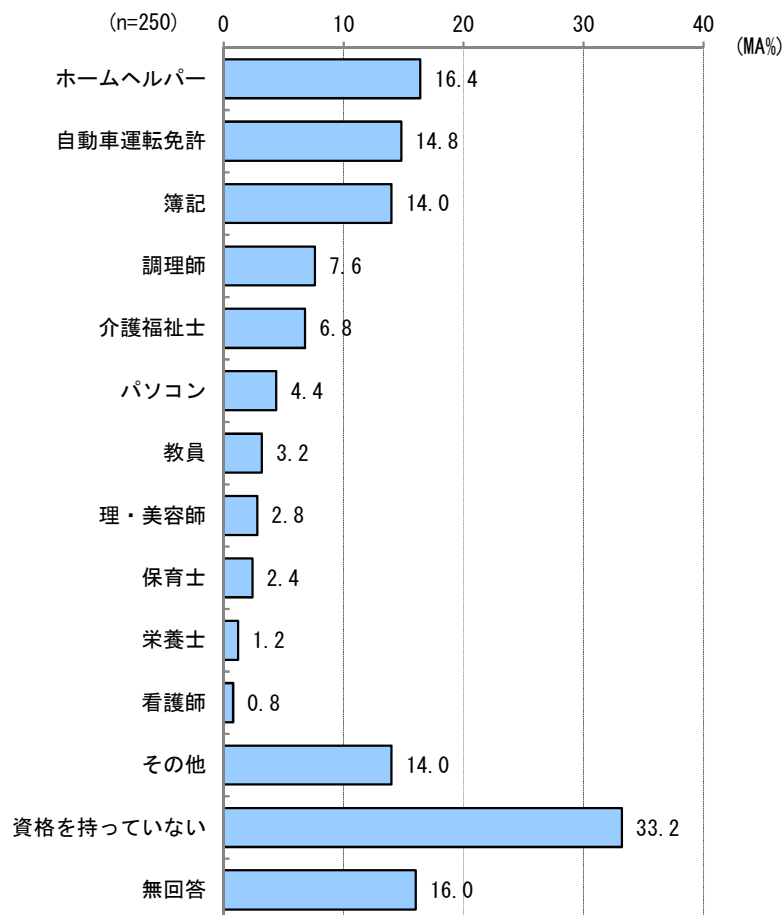
※複数回答を有効としている。

転職したい、無職で働きたい人に、希望する就業形態をたずねると、「正社員・正規職員」が 37.0%で最も多く、次いで「パート・アルバイト・臨時職員」が 29.6%、「在宅で仕事をしたい」が 11.1%となっている。(図 2-7)

## (8) 資格の保有状況

問 15 現在どのような資格を持っていますか。(○はあてはまるものすべて)

【図 2-8 資格の保有状況】



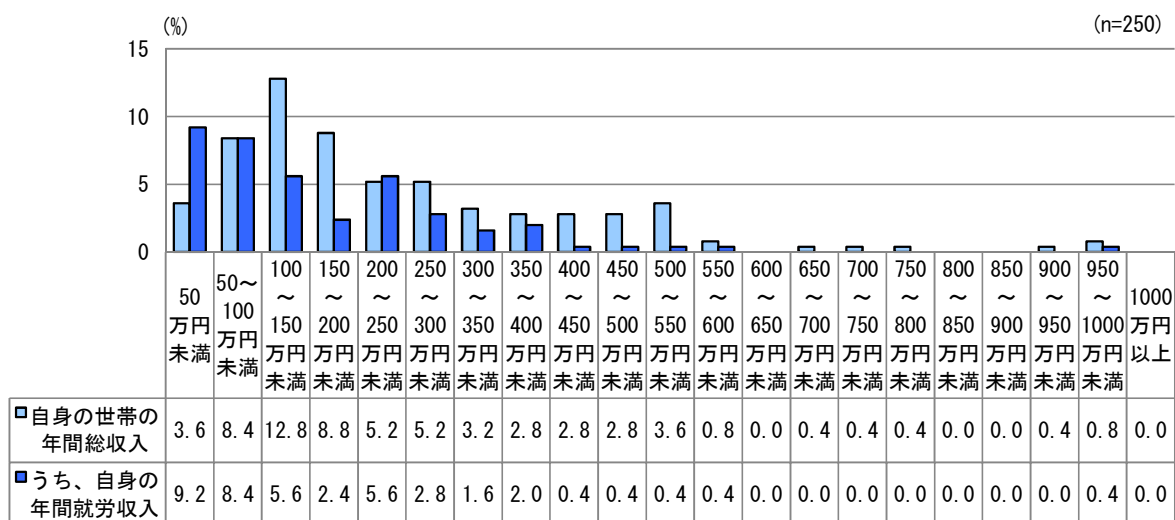
資格の保有状況について、「資格を持っていない」が 33.2%で最も多くなっている。資格を持っている人では、「ホームヘルパー」が 16.4%で最も多く、次いで「自動車運転免許」が 14.8%、「簿記」が 14.0%となっている。(図 2-8)

### 3. 家計の状況

#### (1) 年間の収入状況

問 16 あなたの世帯の平成 29 年（1～12 月）の年間総収入額、そのうちのあなたの年間就労収入額はどれくらいですか。  
それぞれ下から選んで、あてはまるアルファベット 1 つを記入してください。

【図 3-1 年間の収入状況】



年間の収入状況について、自身の世帯の年間総収入では「100～150万円未満」が12.8%で最も多く、各項目を代表値に変換して算出した平均額は247.4万円となっている。

そのうち、自身の年間就労収入では「50万円未満」が9.2%で最も多く、各項目を代表値に変換して算出した平均額は163.3万円となっている。（図 3-1）

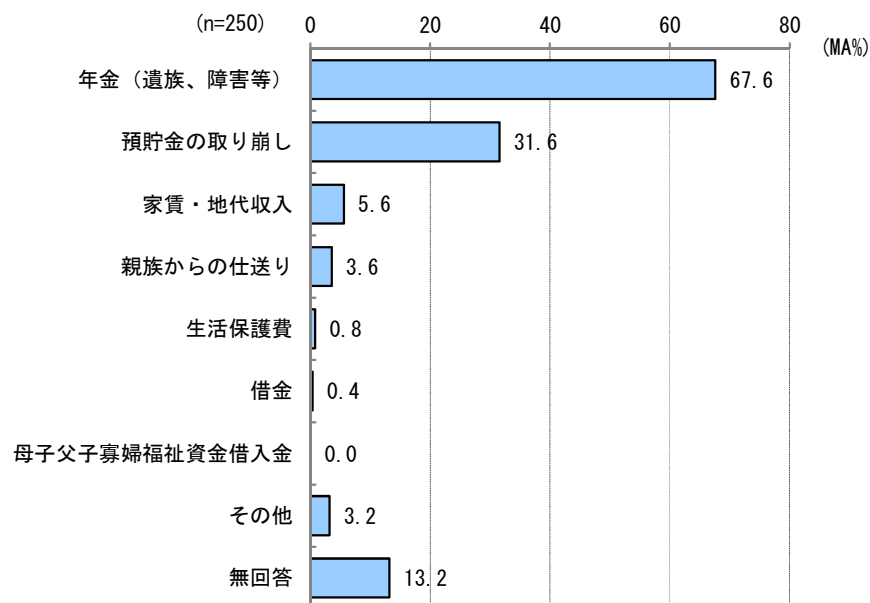
[参考：各項目の代表値]

選択肢	代表値 (万円)	選択肢	代表値 (万円)
50万円未満	25	550～600万円未満	575
50～100万円未満	75	600～650万円未満	625
100～150万円未満	125	650～700万円未満	675
150～200万円未満	175	700～750万円未満	725
200～250万円未満	225	750～800万円未満	775
250～300万円未満	275	800～850万円未満	825
300～350万円未満	325	850～900万円未満	875
350～400万円未満	375	900～950万円未満	925
400～450万円未満	425	950～1,000万円未満	975
450～500万円未満	475	1,000万円以上	1025
500～550万円未満	525		

## (2) 就労収入以外の収入

問 17 あなたは就労収入以外の収入（生活費）がありますか。（○はあてはまるものすべて）

【図 3-2 就労収入以外の収入】



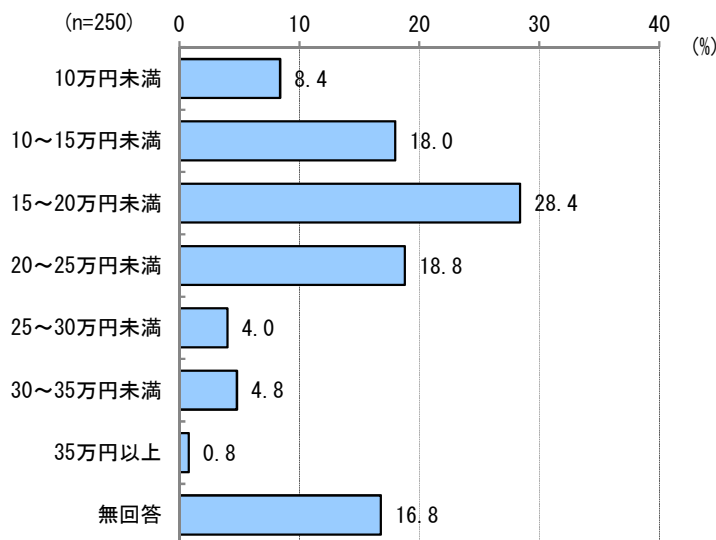
就労収入以外の収入について、「年金（遺族、障害等）」が67.6%で最も多く、次いで「預貯金の取り崩し」が31.6%、「家賃・地代収入」が5.6%となっている。（図 3-2）



### (3) 1か月に必要と考える生活費

問 18 生活するために、1か月に最低どれくらいの金額が必要であると考えていますか。

【図 3-3 1か月に必要と考える生活費】

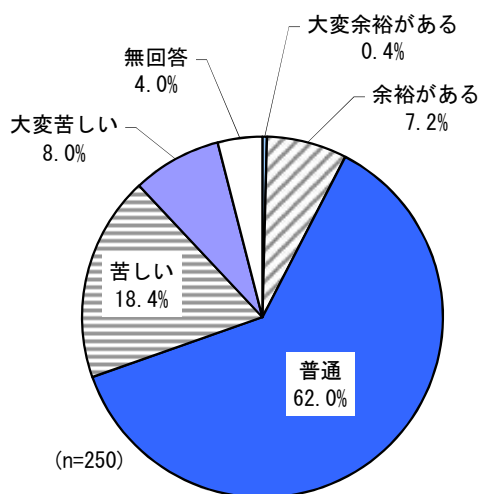


1か月に必要と考える生活費について、「15～20万円未満」が28.4%で最も多く、次いで「20～25万円未満」が18.8%、「10～15万円未満」が18.0%となっており、平均額は約16.4万円となっている。(図 3-3)

### (4) 現在の生活の状況

問 19 現在の生活状況をどのように感じていますか。(○は1つ)

【図 3-4 現在の生活の状況】



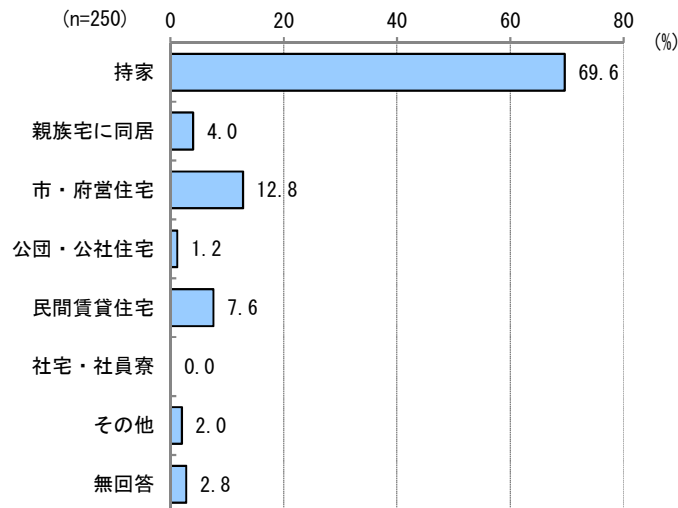
現在の生活の状況について、「普通」が62.0%で最も多く、次いで「苦しい」が18.4%、「大変苦しい」が8.0%となっている。(図 3-4)

## 4. 住居の状況

### (1) 現在の住居

問 20 あなたの現在の住宅について、あてはまるもの1つに○をつけてください。

【図 4-1 現在の住居】

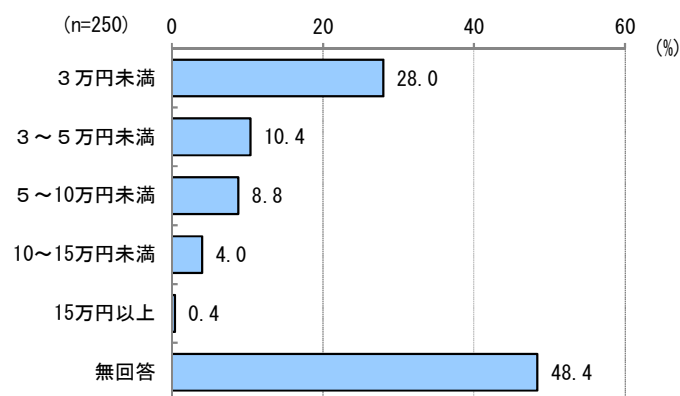


現在の住居について、「持家」が69.6%で最も多く、次いで「市・府営住宅」が12.8%、「民間賃貸住宅」が7.6%となっている。(図 4-1)

### (2) 住宅費の状況

問 21 現在の住宅について、あなたが負担している住宅費（家賃、ローン等）を記入してください。（家賃の方は共益費を除いてください）

【図 4-2 住宅費の状況】



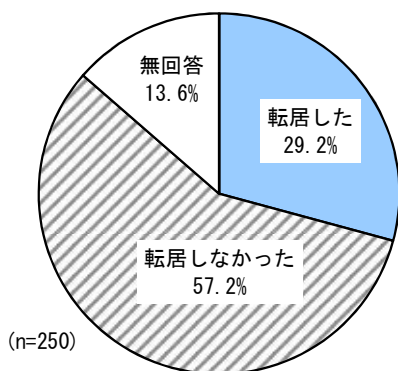
住宅費について、「3万円未満」が28.0%で最も多く、次いで「3～5万円未満」が10.4%となっており、平均額は約3.3万円となっている。(図 4-2)

### (3) ひとり親家庭になったときの転居

#### ① ひとり親家庭になった前後の転居の有無

問 22 ひとり親家庭になったとき、転居しましたか。(○は1つ)

【図 4-3① ひとり親家庭になった前後の転居の有無】

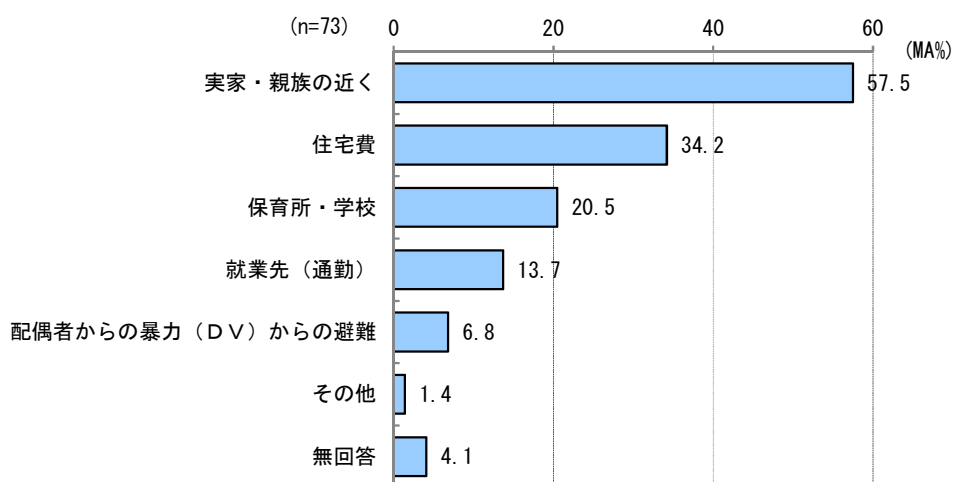


ひとり親家庭になったときに転居したかについて、「転居した」が29.2%、「転居しなかった」は57.2%となっている。(図 4-3①)

#### ② 転居に際して重視した内容

問 22-1 問 22 で「転居した」と回答した方におうかがいします。  
転居先を決めるときに、重視した事項をお答えください。  
(○はあてはまるものすべて)

【図 4-3② 転居に際して重視した内容】



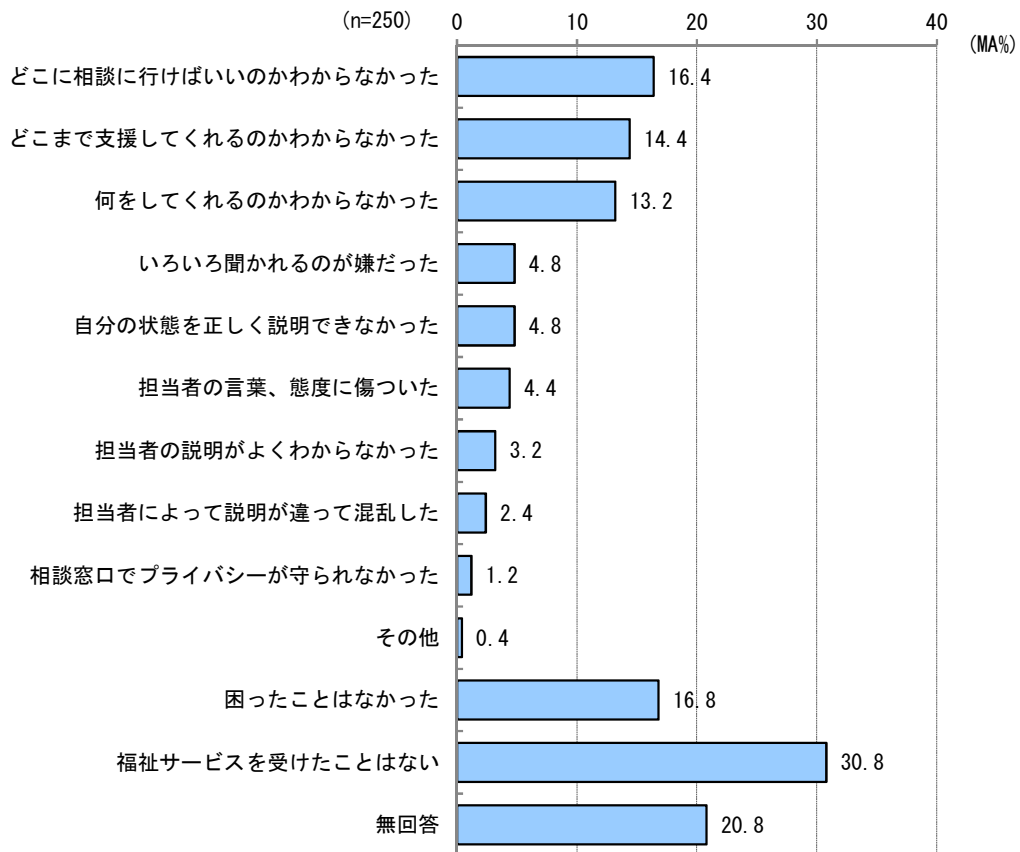
ひとり親家庭になって転居した人に、その際に重視した内容をたずねると、「実家・親族の近く」が57.5%で最も多く、次いで「住宅費」が34.2%、「保育所・学校」が20.5%となっている。(図 4-3②)

## 5. 各種支援策について

### (1) 福祉サービスを受けるときに困ったこと

問 23 福祉サービスを受けるときに不満なこと、困ったことは何ですか。  
(○はあてはまるものすべて)

【図 5-1 福祉サービスを受けるときに困ったこと】



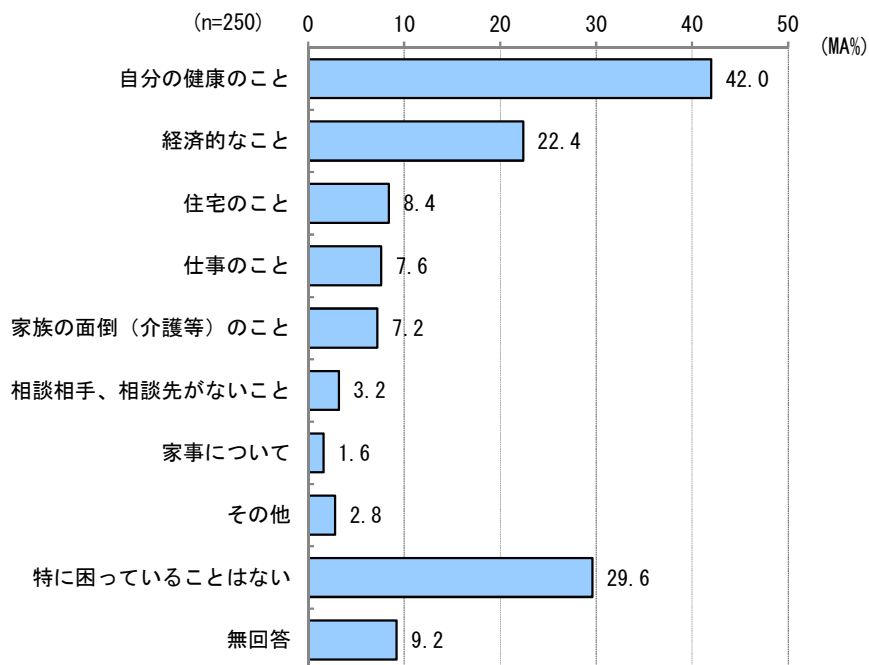
福祉サービスを受けるときに困ったことについて、「どこに相談に行けばいいのかわからなかった」が16.4%で最も多く、次いで「どこまで支援してくれるのかわからなかった」が14.4%、「何をしてくれるのかわからなかった」が13.2%となっており、福祉サービスの周知度の低さがうかがえる。

一方で、「福祉サービスを受けたことはない」が30.8%、「困ったことはなかった」は16.8%と多くなっている。(図 5-1)

## (2) 現在困っていること

問 24 現在困っていることは何ですか。(〇はあてはまるものすべて)

【図 5-2 現在困っていること】



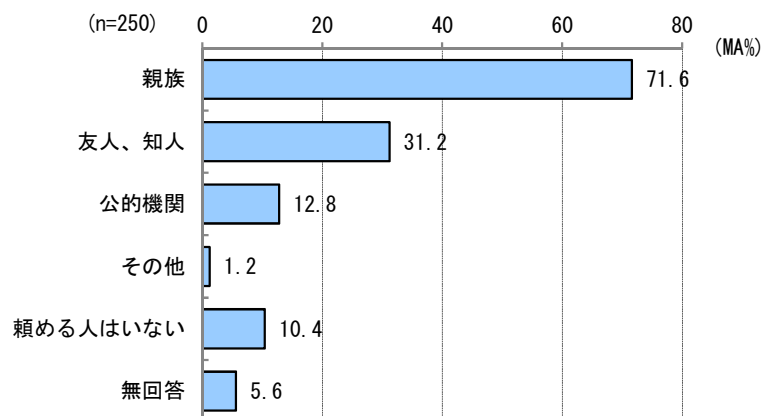
現在困っていることについて、「自分の健康のこと」が42.0%で最も多く、次いで「経済的なこと」が22.4%、「住宅のこと」が8.4%となっている。

一方、「特に困っていることはない」は29.6%となっている。(図 5-2)

### (3) 相談先や頼れる相手

問 25 困ったときに相談や手助けを頼める人や機関がありますか。  
(○はあてはまるものすべて)

【図 5-3 相談先や頼れる相手】



困ったときに相談や手助けを頼める相手について、「親族」が71.6%で最も多く、次いで「友人、知人」が31.2%、「公的機関」が12.8%となっている。

一方、「頼める人はいない」は10.4%となっている。(図 5-3)

